

2年目の推進のキーワードは、「チームと対話」

- 集中取組期間1年目で明らかになった課題等乗り越えて、更に推進していく2年目は「チームと対話」がキーワードとなります。
- 全ての関係者が、連携・協働する「チーム」となり、働き方改革の取組に一人一人が主体的に関わり、お互いを認め合いつつ、率直に意見を伝え合うこと、「対話」をしていくことが大切です。

方針等 目的

教職員一人一人が、良好な人間関係を築き、心身ともに健康で本来の職務に専念し、児童生徒と共に学び、成長しながら、専門性を十分に発揮して、「子供たちへのより良い教育」を行っていくことができる教育環境を整える。

児童生徒と教職員のウェルビーイングの向上

目標 目的実現のための「3軸・6視点」の実感の向上

教職員が「働きやすさ」「働きがい」「心身の健康」を十分に実感できる環境整備

3軸	働きやすさ	働きがい	心身の健康
6視点	同僚・管理職との良好な人間関係の構築	児童生徒・保護者との信頼関係の構築	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成
	個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保	資質能力の向上や専門性の発揮	長時間勤務の改善

働き方改革とメンタルヘルス対策の一体的な取組

目的の5つのポイント

- ①良好な人間関係の構築
- ②心身の健康
- ③本来の職務への専念
- ④児童生徒と共にした学びと成長
- ⑤専門性の発揮

評価 「3軸・6視点」に基づいて、次の成果指標を設定し、毎年度、評価する。

- 成果指標1 学校評価(教職員対象)の評価項目に、下記の「3軸・6視点」に関する5項目を位置づけ、肯定的回答の割合を成果指標とする。
- 成果指標2 「3軸・6視点」に関する管理職アンケート調査を実施し、肯定的回答の割合を成果指標とする。
- 成果指標3 客観的計測による在校等時間を集計し、教職員の長時間勤務者の人数と割合を成果指標とする。

「3軸・6視点」に関する5項目(学校評価に設定)

- ✓ 同僚・管理職との良好な人間関係の構築ができている。
- ✓ 個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保ができている。
- ✓ 一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができている。
- ✓ より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。
- ✓ 心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができている。

4段階評価

- A : 当てはまる
B : ある程度当てはまる
C : あまり当てはまらない
D : 当てはまらない

A・B
= 肯定的回答

検証 成果指標の目標値

全教職員の「3軸・6視点」の実感向上を目指して、令和8年度(2026年度)末までに

成果指標1、成果指標2の目標値 肯定的回答の割合を80%以上とする。

成果指標3の目標値 時間外在校等時間が月45時間、月80時間、年360時間を超える教職員の割合。

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
月80時間超 (年度計月平均)	月80時間超 (年度計月平均)	月80時間超 (年度計月平均)	月80時間超 (年度計月平均)
0%	0%	0%	0%
月45時間超 (年度計月平均)	月45時間超 (年度計月平均)	月45時間超 (年度計月平均)	月45時間超 (年度計月平均)
10.15%	14.7%	11.1%	1.15%
年360時間超	年360時間超	年360時間超	年360時間超
10.8%	13.3%	21.7%	4.55%

ついに決まりました!!



「みんなの学校!ピースフル・プラン」リーフレット版

Ver.2

さあ、2年目が始まります!

『チームと対話』で取り組もう!!



「学校における働き方改革」の目指すべき方向性

教職員のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の改善を図ることで教職員の健康を守るとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど、教職員のウェルビーイングを確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対してより良い教育を行うことができるようにすることです。

取組期間

	初年度評価・検証	中間年度評価・検証	最終年度評価・検証
スケジュール	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)
本プラン	集中取組期間(3年)		



令和7(2025)年3月 沖縄県教育委員会

みんなの学校!ピースフル・プラン〈全体版〉はこちら

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008490/1008491/1008508/1024388/1027590.html>



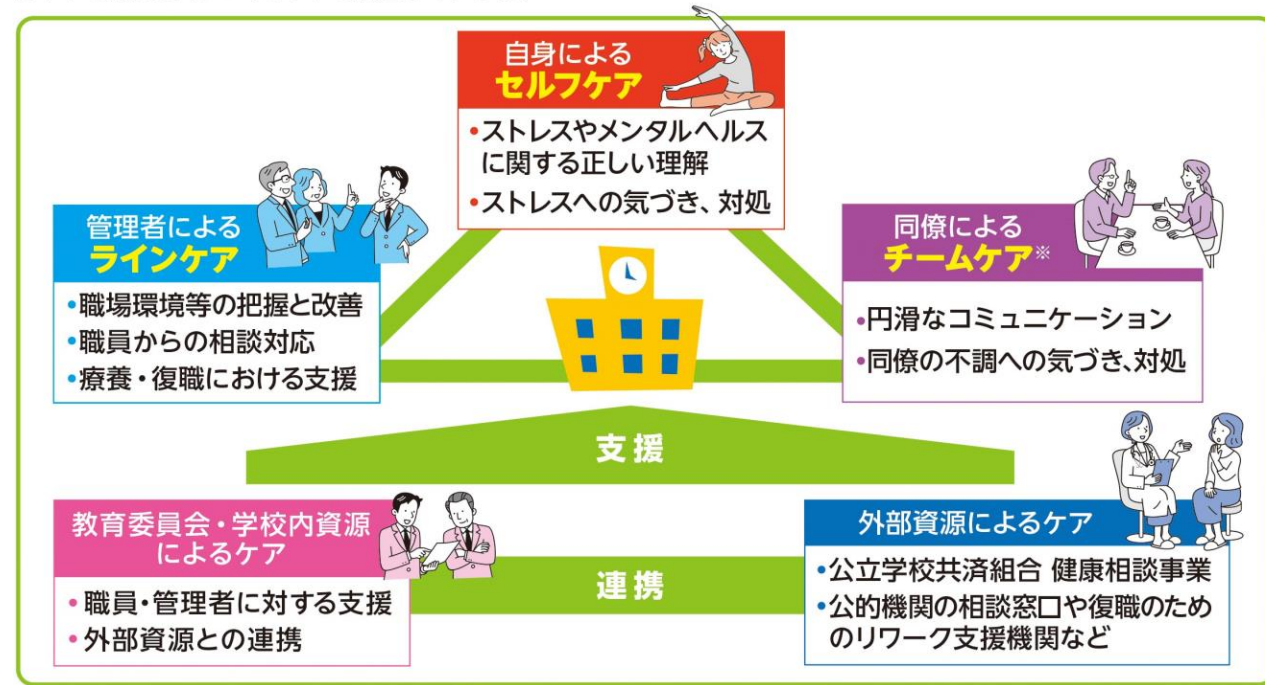
さあ2年目、「チームと対話」で取り組もう!

働き方改革とメンタルヘルス対策を一体的に取り組もう!!!

メンタルヘルスカとは何をするの？

メンタルヘルスカでは、全ての働く人が健やかに、いきいきと働けるように、実施主体に応じた“5つのケア”を継続的かつ計画的に行うことで、“3つの予防”の機能を発揮させることが必要です。

※沖縄県教育委員会では、学校の実情等を踏まえ、厚生労働省が示す職場におけるメンタルヘルスの「4つのケア」に同僚による「チームケア」を加えた「5つのケア」を推進しています。



一次予防	メンタルヘルス不調の未然防止
二次予防	メンタルヘルス不調の早期発見と適切な対応
三次予防	メンタルヘルス不調からの復職支援

一人一人ができること

心のケアも体のケア（風邪や虫歯等）と同じく、予防、早期発見・対処、再発防止を日常的に意識することが大切です。

自分自身で(セルフケア)

- ♥ 自分の不調のサインにきづく
- ♥ 信頼できる人や相談機関へつながる

同僚として(チームケア)

- ♥ 互いに思いやりをもてる職場をみんなでつくる ▶ つながる
- ♥ 同僚の不調のサインにきづく
- ♥ 管理者や相談機関へつなげる

不調のサインに **きづく！ つながる！ つなげる！**

きづく！ ご自身や同僚に、このようなサインは出ていませんか？

メンタルヘルス不調のサイン（初期症状）があれば相談する等の早めの対応が必要です。

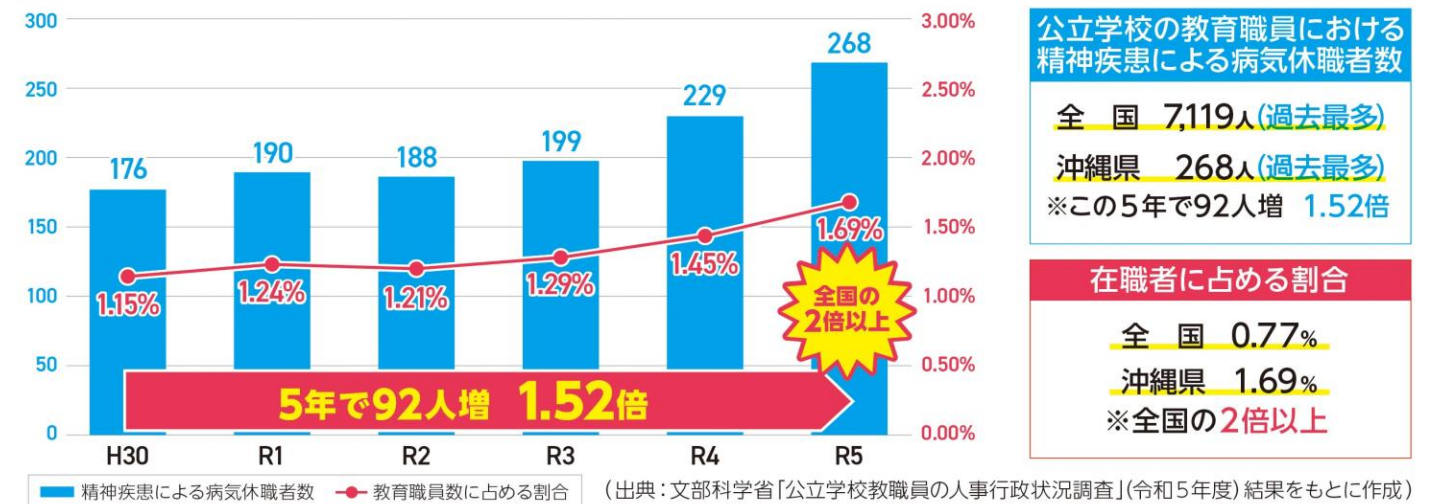
- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|---|---------------------------------------|
| ☐ 眠れない | ☐ イライラしやすくなる | ☐ 遅刻・早退・欠勤が増える | ☐ 周囲とのトラブルが増える |
| ☐ 食欲が落ちる | ☐ 興味・意欲がなくなる | ☐ 注意力・集中力・判断力・記憶力が低下する | ☐ 身だしなみに構わなくなる |
| ☐ 自分を責める | ☐ 表情が暗く・乏しくなる | | |

相談に **つながる！ つなげる！**

- ・サインに気づいた時は、周囲に相談したり、相談窓口や専門機関等につながりましょう。
- ・相談を受けた場合は、相談者の発言を否定せず、まずは、共感して寄り添いましょう。
- ・問題を抱え込まず、本人の同意を得て、早期にチームとして対応し、適切な支援につなげることが大切です。

教職員のメンタルヘルスの状況

沖縄県公立学校の教育職員における精神疾患による病気休職者数と在職者に占める割合（令和5年度）



公立学校の教育職員における精神疾患による病気休職者数

全 国 7,119人(過去最多)
沖縄県 268人(過去最多)
※この5年で92人増 1.52倍

在職者に占める割合

全 国 0.77%
沖縄県 1.69%
※全国の2倍以上

近年、精神疾患は身近な疾病で、だれもがメンタルヘルス不調に陥る可能性がある時代です。
ストレスやメンタルヘルスについて正しい知識と理解のもとで
自分事として適切な対処行動をとれるようにすることが大切です。

POINT

- ✓ 教職員 = 学校経営の最重要資源
- ✓ 教職員の心身の健康 = 学校の活力

子供たちに対してより良い教育が行えるようにするために、
教職員が、心身ともに健康で、働きやすく、働きがい
十分に実感できる教育環境を整える必要があります。

▶「3軸・6視点」の実感の向上

相談窓口

公立学校共済組合 健康相談事業

LINE・電話・面談・WEBなどによる相談事業。メンタルヘルス以外に、健康・介護相談もできます。



沖縄県保健医療介護部総合精神保健福祉センター「こころの支援機関リスト」

県内の医療機関、保健福祉の公的機関、ひきこもり支援、依存症自助グループ・家族会等のリストを掲載。



もっと知りたい方へ

厚生労働省 働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」

セルフケアやラインケアの教示・事例紹介、Q&Aなど情報が豊富にあります。



沖縄県教育委員会 公立学校教職員のメンタルヘルスカの指針「メンタルサポートガイドライン」



沖縄県教育委員会では、令和7年度より「教職員メンタルヘルスの日(5月1日、9月1日)」を定め、メンタルヘルスカに関する情報発信を行っていきます。